

津大豆ニュース ～令和元年産第1報～

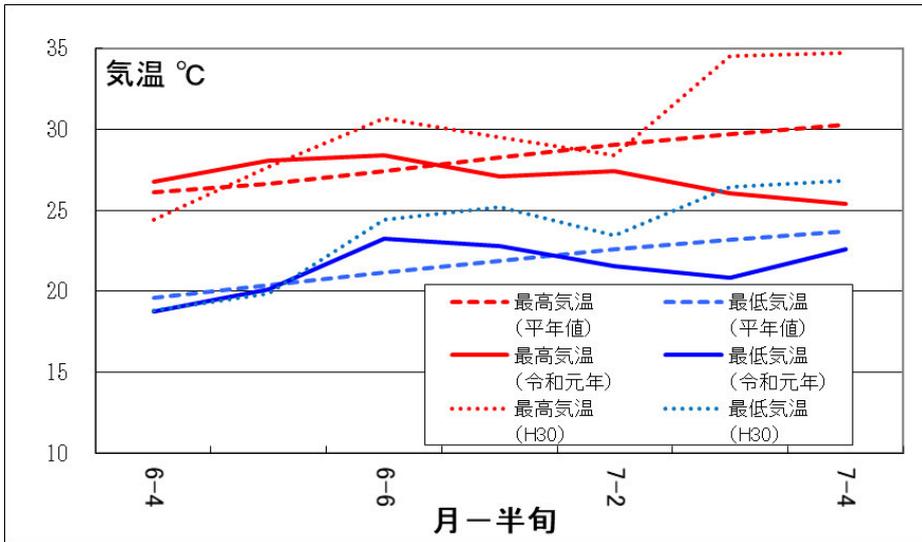
令和元年 7月 26日

津地域農業改良普及センター TEL : 059-223-5103

気象経過

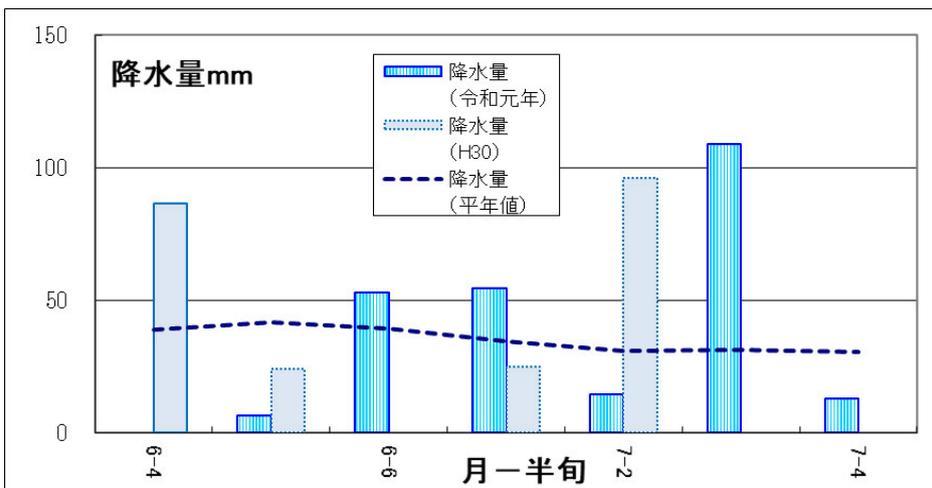
気温

7月上旬以降、最高気温、最低気温とも平年より低く推移しています。



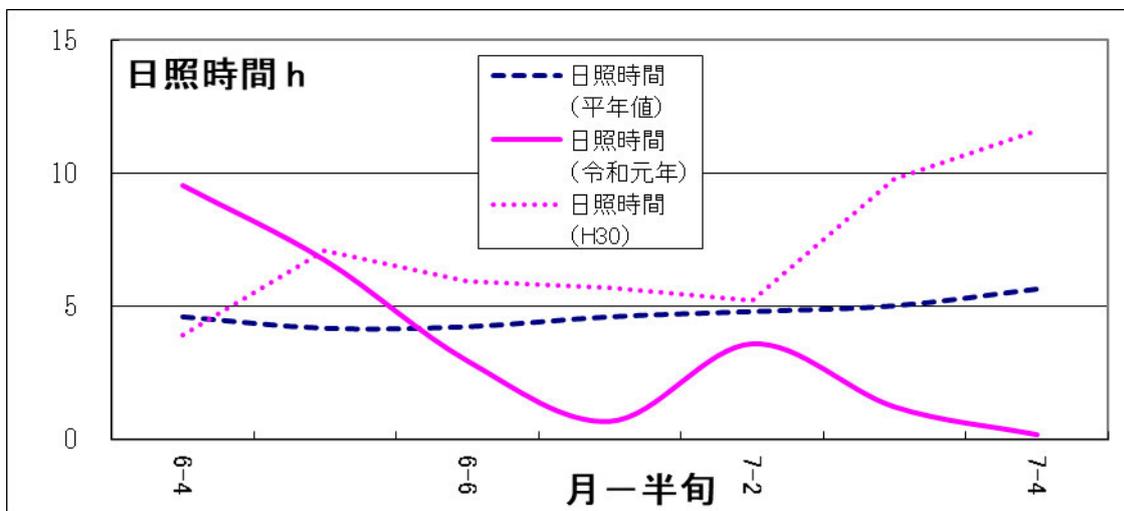
降水量

6月下旬から7月にかけて雨の降る日が多くなっています。



日照時間

6月下旬以降、曇りや雨の日が多く日照時間は大幅に少なくなっています。



生育状況

播種

6月下旬から7月にかけて曇天と降雨が続いたため、耕起や溝切り等の作業が行えず、例年と比較し播種がかなり遅れています。

生育状況

6月25日播種の圃場においては、現在4葉が展開中となっています。

今後の管理

雑草管理

帰化アサガオ類、ホオズキ類等の強害雑草の発生が増加しています。これらの雑草は生育旺盛で、大豆を覆い生育を著しく阻害します。また、収穫の際に雑草の汁で子実が汚れたり、収穫物に雑草の種子が混入して品質低下等の原因となります。特に、大豆が株間・畝間を覆うまでの早期の雑草防除が重要です。今年は播種が遅れているため、普段想定しているよりも雑草の生育が早い可能性があります。圃場をよく観察し、適用葉齢内に除草することを心掛けましょう。

<雑草防除対策> ～雑草の発生が多い圃場では体系防除が効果的です～

- ①土壌処理・・・エコトップ P 乳剤、クリアターン乳剤等
- ②中耕培土

③雑草茎葉散布・・・アタックショット乳剤、大豆バサグラン液剤等

④畝間処理（吊り下げノズル等を使用）・・・バスタ液剤等

（農薬を使用する場合は、成分回数や使用時期、特に収穫前日数など使用上の注意をよく読んで、登録内容に従って使用してください。）

害虫対策

○吸汁性カメムシ類

吸汁性カメムシ類は、成虫・幼虫ともに子実を直接吸汁加害し、奇形粒の発生や不稔等の原因となり減収につながります。被害は、適期に薬剤散布による防除を行うことで抑えられます。カメムシ類の防除適期は着莢期から子実肥大期です。発生が多い場合には追加防除を実施しましょう。

○ハスモンヨトウ

ハスモンヨトウは、高温が続く年に大発生する傾向があります。令和元年度病虫害発生予報第4号では発生量はやや多と予想されています。圃場を小まめに巡回して、白変葉の発生に注意し、若齢幼虫のうちの薬剤防除を行いましょう。

中耕培土

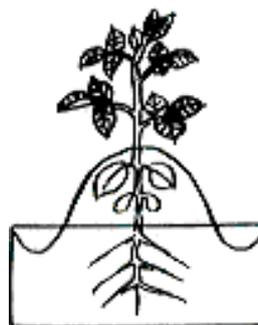
中耕:通気性を良くし、根粒の着生を促すとともに雑草防除にも効果が期待できる。

培土:根の発達を促進し、養水分吸収を高め、倒伏防止に効果が期待できる。

1回目は本葉2～3葉が展開したときに、中耕培土を行うことで雑草の初期発生がおさえられ、雑草防除、排水性の向上、根の活性化、倒伏防止に効果があります。開花までに2回以上行いましょう。



1回目:本葉2～3葉期
子葉が隠れる程度



2回目:本葉4～5葉期
初生葉が隠れる程度

畦間かん水 (開花期から子実肥大が終わるまで約 40 日間)

大豆は開花期以降、要水量が大きい作物で、この時期に乾燥が続くと落花、落莢の発生が増加するとともに収穫時の青立ちを助長し、収量・品質が低下します。干ばつ時（葉が 40～50%裏返った時）には、朝夕の涼しい時間帯に畝間かん水を行いましょう。

生育予測

○大豆生育予測 【令和元年7月24日現在】

品種	播種日	開花期 (平年との差)
フクユタカ	7月1日	8月21日 (1.8日遅い)
	7月15日	8月28日 (0.7日遅い)

※三重県農業研究所作成の生育予測システムVer9.2による予測です。

気象庁アメダス観測地点データ(直近10ヶ年の平均気温)を使用しています。